

【概況】

●17日、4月の中国の鉱工業生産は6.7%増と、前月から2.2ポイント拡大し、予想を上回る加速が示された。また同国政府は、不動産価格が下げ止まらないことを背景に、大規模な介入策を公表。地方政府が在庫物件を買い取ることを容認するほか、中国人民銀行(中央銀行)が住宅ローン金利の下限撤廃を発表した。世界最大の石油輸入国である中国の石油需要が回復するとの期待が広がり、原油は買いが優勢となり相場は80.06ドルへ続伸しました。

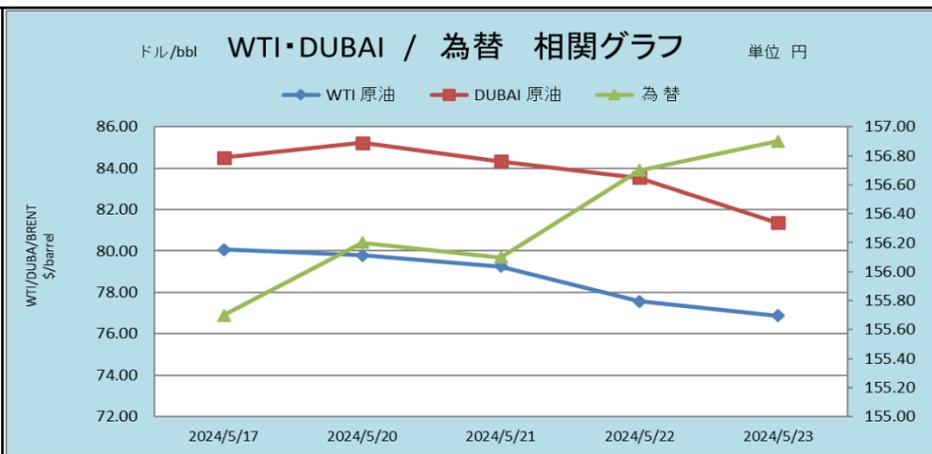
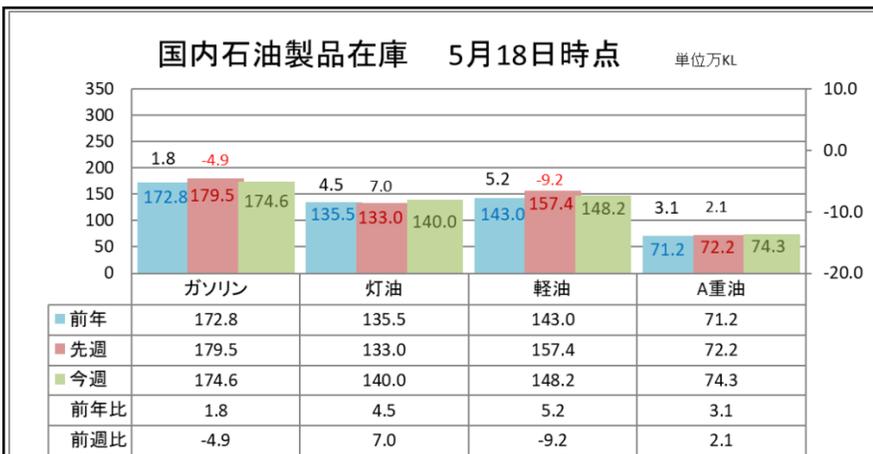
●20日、米連邦準備制度理事会バー副議長は20日の講演で、1~3月期のインフレ動向について「利下げを支援するような確信増大をもたらさなかった」と述べた上で、時間をかけて景気抑制的な政策を機能させる必要性を強調した。ジェファーソンFRB副議長は、FRBが物価目標2%に低下する一段の確信を得られるまで「利下げが適切とは考えない」との見解を改めて表明。政策転換に消極的なFRB高官らの発言を受けて、市場の9月利下げ期待が幾分後退し、金利据え置き長期化で景気減速やエネルギー需要の鈍化を招くとの懸念が台頭し相場は79.8ドルへ反落しました。

●21日、米連邦準備制度理事会(FRB)のウォラー理事は21日の講演で、利下げ開始を支持するには「あと数カ月、良いインフレ指標を確認する必要がある」と語った。FRB高官らからはここ最近、根強いインフレ圧力を背景に利下げに慎重な発言が相次いでいることから石油需要減退につながるとの警戒感がくすぶり、原油は売りが優勢となり相場は79.26ドルへ続落しました。

●22日、米連邦準備制度理事会(FRB)はこの日午後、5月1日まで開催の連邦公開市場委員会(FOMC)の議事要旨を公表。同会合では、1~3月期にインフレ鈍化ペースが停滞したことを踏まえ、現行の金利水準が十分に景気抑制的かどうか不透明との意見が多かったことが示された。また、追加利上げの必要性に言及する向きもあった。同月15日に発表された4月の米消費者物価指数(CPI)はインフレ圧力の緩和を示唆する結果となったものの、議事要旨の内容から改めて金利高止まりへの懸念が増大し相場は77.57ドルへ続落しました。

●23日、S&Pグローバルが23日発表した5月の米製造業購買担当者景況指数(PMI)速報値は50.9と市場予想(ロイター通信調べ)の50.0を上回った。サービス業PMI速報値も54.8と前月(確報値51.3)から上昇、12カ月ぶりの高水準となった。これを受けて、米利下げの時期が後ずれするとの観測が強まり、ドルが対ユーロで上昇。ドル建てで取引される商品の割高感につながり、売りが優勢し相場は76.87ドルへ続落しました。

5月24日 16:00現在 WTI原油 76.74ドル 為替 1ドル 158.16円



	次回元売変動予測	
	5/30~	元売変動予測
ガソリン	→	-0.2~+0.3
灯油	→	-0.2~+0.3
軽油	→	-0.2~+0.3
A重油	→	-0.2~+0.3
LSA	→	-0.2~+0.3

【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「0.5円」、補助金は、「-25.6円・60%」、都合「±0円」スライドの改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの20日時点の小売価格平均は174.8円となっております。

《5月30日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「▲0.5円~±0円」、激変緩和補助金は「-25.3円・60%」の見込みで、都合「▲0.2円~+0.3円」の改定の予測となっております。

※原油コスト「-0.5円~±0円」
 ※激変緩和補助金「-25.3円」前週比+0.3円
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】 <出光、合成メタノール生産の米HIFに出資 177億円>

出光興産は13日、環境負荷の小さい燃料「合成メタノール」の生産を計画する米HIF Global(ヒフグローバル)に出資すると発表した。出資額は1億1400万ドル(約177億円)。将来の合成メタノールの購入につながるほか、ノウハウを取り込んで自前での生産に生かす。ヒフグローバルの増資を出光が引き受け、5月中に出資を完了する。出資比率は非開示。出光はヒフグローバルに取締役を1人派遣する。両社はこれまでも合成メタノールの売買に向けて協議しており、出資でさらに関係を深める。ヒフグローバルはチリ、ウルグアイ、米国、オーストラリアで合成メタノールの生産設備の建設を計画し、2030年に年間400万トンの生産規模にする予定だ。出光は早ければ28年にヒフグローバルから合成メタノールの輸入を始める。出光は35年には世界で合成メタノールを年間50万トン供給する体制を整える。ヒフグローバルから購入するほか、自前で生産する。合成メタノールは水を再生可能エネルギーの電気分解してつくる「グリーン水素」と、二酸化炭素(CO2)を原料につくられる。製造時に回収したCO2と燃やした際のCO2が相殺されるとの考え方で、環境負荷の小さい燃料とみなされている。合成メタノールは船舶の燃料になるほか、合成ガソリンや再生航空燃料(SAF)のもとになる。脱炭素を進める企業からの需要が増えるとみている。